



和紙ちぎり絵
制作中

白石先生が
一カ月に一度、
「和紙ちぎり絵」をご指導して下さいます



猛暑の九月でしたが、夏休み明けで、皆さん制作意欲盛んで各サークルは満員。写真は「和紙ちぎり絵」のグループ

9月の歩こう会

瓜生緑地に行って来ました。当日暑かったので参加者は少なかったのですが、おしゃべりしながら緑地をめぐるって来ました。(郡司)

「いーち広場」食後の団らん



食後はコーヒータイム。誰でも気楽にくつろぐことが出来る好評。どなたでもどうぞ！

「江戸や」さん 閉店!!!

二十三年間、落合で営業していた「江戸や」さんが、突然の閉店でアツと驚きました。落合商店街にとっても、私たちにとって大変な事で、便利なスーパーだったのでもとても残念です。八百屋さんと「江戸や」さんの後はどのようなのでしょうか？

《いーち俳句を楽しむ会》 令和六年九月九日

暑さの中にもふと秋の気配を感じる時があります。雲の形に。野に咲く草花に。庭の虫に……。今回から新しい句友が参加をして下さることにになりました。荒井さんです。どうぞよろしくお願い致します。

・包丁の食い込みしまま南瓜置く
・夜を埋める漆黒の雲 はたは神
・西方へ案内するかや黒揚羽
・車窓開け言葉かけたし萩の花
・初秋や肘の擦り傷買葉
・逃げ込んだ玉ねぎ小屋に雷落ちる
・新米の待たるる日々や子ら走る
・盆踊り耳に残りし母の声
・萩流れ二匹の蝶の見え隠れ
・海見つつ夜明けの君に秋の声
・故郷や波音混じる盆太鼓

(美恵子)
(啓)
(操子)
(むつみ)
(節子)
(亨)
(忠夫)
(美恵子)
(操子)
(啓)
(操子)

・難聴の耳にも聞こゆる虫の声
・滝の音思わぬ近き霧の中
・生きて会ふ悲しみのごと秋の色
・軒先の風鈴の音に涼を得る
・天界は下界の苦知らず鯛雲
・新涼や路端に二輪 白き花
・雷鳴や子等はさつさと蚊帳の中
・空いっぱい浮雲満ちて夏去りぬ
・雲流れ森のうつろひトンビ舞ふ
・銀杏の匂い弟今何を

(むつみ)
(知香)
(啓)
(知香)
(むつみ)
(忠夫)
(亨)
(忠夫)
(美恵子)
(節子)

《創作川柳》 令和六年九月投句より

国内の、国外の自然災害、人間の引き起こす戦争……。多くの尊い生命が失われてゆきます。そんな中でホッと明るくなるニュースも流れ、私たちを救ってくれます。今年二回も災害に見舞われた石川県から大関が誕生したことは本当にうれしいことでした。いーち川柳にも取り上げられました。次回はどんな句が詠まれるでしょう。お楽しみに。

・豊かさも災いも運ぶ水資源
・印鑑がこんなにあつて貧乏なり
・大の里能登災害も押し出して
・秋よ来い心疲れて待っている

(迷夢)
(迷楽)
(脱兎)
(流風)

・大銀杏結う間もなく大関へ
・ガザの地は立場代えてのアウシユビツツ
・もう一步前へ進もう孫が言ひ
・彼岸花雨ニモマケズ顔ヲ出シ

(迷夢)
(流風)
(迷楽)
(脱兎)